

夢の動力

6組

ブン

スレイ

ピッチ

私はカンボジアから来ました。カンボジア
と言えば、何を思い出しますか。カンボジア
には、様々な世界遺産があります。その中で
も、アンコール遺跡は世界中に知られており、
カンボジア王国が世界に知られている理由の
一つであるかもしれません。アンコール王朝
時代はカンボジアの歴史の中の最盛期でした。
その当時から残る素晴らしい建築物や文化は
カンボジアの人々にとって貴重なものです。
カンボジアにはこのように繁栄した時代も
ありましたが、悲惨な歴史もありました。ポ
ルポト政権はカンボジアの歴史上最も暗黒時
代でした。私は子供の頃、その時代の冷酷無
情な話を興味深く聞きましたが、両親にとっ
ては忘れられない苦しい記憶です。

フランスからの完全独立を達成してから、
シハヌーク国王が政権についた時代に生まれ
た両親にとってカンボジアは明るい未来に向

かっているようでした。しかし、ポルポト政
権がカンボジアを暗黒時代に曲げていきまし
た。ポルポト政権下では、教育も商業も宗教
もなく、仕事は農業だけでした。学生だった
両親は学校の代わりに畑へ通いました。国民
全員が黒い服に着替えさせられ、学生達は本
の代わりに鋤を持って畑を耕しました。ポル
ポトは「カンボジア人はみんな一緒に耕作し、
食事をし、寝るのだ。全てはポルポトのため
だ。」と言いました。母は毎朝4時に起きて畑
へ行き、30分の昼休みにたいていおかゆを食
べていたそうです。米は輸出のためのもので、
耕している人たちの口に入ることはほとんど
ありませんでした。時々スープが出ましたが、
腐って酸っぱくなった野菜が使われていたそ
うです。みんなの体はとても弱く痩せていて、
男か女か見分けられませんでした。時々耕作
ができなくなった人が、上司に呼ばれて、殴
られることもあったし、殺されることもあり
ました。その時代「教育される」とは「殺害

される」という意味でした。全国の学校は殺人の場所になりました。医者もほとんど殺され、母の兄は重い病気にかかりましたが、治療を受けられず、亡くなってしまいました。それは母にとってポルポト時代の最も惨めな思い出と言いました。自由がなく、まして夢はありませんでした。ポルポトの後、人々は新しい生活を始めました。しかし国は混乱し、経済の発展が非常に遅れていました。私は子供の頃から繰り返しその話を聞き、国のために立派な人になることを決心しました。「戦中の国には勇士が要るが、平和な国には知識人が要る。」カンボジアの発展は人材育成にかかっていると先生はお話されました。絶対に一生懸命勉強して、自分の夢のためにも、母国の将来のためにも、成功しなければならぬと思いました。ポルポト政権下では大きな損害がありましたが、幸いに最も貴重な古代建築物はほとんど残っていました。「アンコールワットは国の精神だ。」という言葉

が小学校の教室にかけられていました。その遺産はただ建築物というだけではなく、国にとっての宝で、いつも明るい未来に希望の力をくれるものです。クメール建築の精神が国民に与える重要性を考えると、私も建築家になりたいと思うようになりました。カンボジアが再びアンコール王朝のように素晴らしい国になってほしいという希望を抱いています。高校時代、世界の歴史を勉強する中で日本の歴史に興味を持ちました。第二次世界大戦後、日本は甚大な損害がありました。そして短期間に復興できたことが本当に不思議です。日本では古い建築物も現代的な建築物もたくさんあり、技術もデザインも素晴らしいので、カンボジアの発展の良いロールモデルだと思っています。そのため、日本の建築だけでなく、文化や習慣も学びたいと思っていました。私は念願だった奨学金試験に合格し、日本に留学できました。絶対に夢を叶えるつもりです。私は今、夢の出発点に立っています。